（別紙様式１）

佐世保市立早岐中学校の結果・考察・改善策について

住　所：佐世保市陣の内町１００
校長名：緒方　茂
生徒数：６０８名
学級数：２０学級

	成　　果	課　　題	改善に向けた取組
国語	○国語Ａでは、「書く能力」に関しては、比較的落ち込みが少なかった。	○国語Ａ、Ｂとも全体的に落ち込みがあるが、国語Ａでは「話す・聞く能力」、「読む能力」で、国語Ｂでは「言語に関する知識理解」で全国平均を大きく下回っていた。	○文章中にある指示語が示す内容や意味、段落中のキーセンテンスなどを的確につかむための練習問題に取り組ませる。 ○学力伸長のため、漢字小テストや文法の復習テストに取り組ませる。
数学	○数学Ａでは「図形」、「資料の活用」で落ち込みが少なかった。	○数学Ａ、Ｂともに全体的に落ち込みがあるが、数学Ａでは「関数」、「数量や図形についての知識理解」、数学Ｂでは「資料の活用」や「問題の意図を読み取る」面で全国平均を大きく下回っていた。	○関数については、基本感覚となる「ともなって変わる量」の感覚育成を行いつつ、表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるようにする。 ○数学的な知識が不足しているので、授業の最初に振り返りの小テスト等で定着を図る。 ○文章問題等の理解をより深めるために、思考の際に図や表を用いて、これを習慣にさせる。
理科	○水溶液の濃度を求める問題では、県、全国の平均を上回っていた。 ○条件操作、神経系、地震に関する知識では比較的落ち込みが少なかった。	○「自然事象への関心・意欲・態度」、「変数に伴う結果の変化」、「主体的な取組」、１分野の知識（原子・分子、オームの法則）で大きな落ち込みが見られた。	○導入や考察に生徒同士で話し合う活動を取り入れ、知識の定着と科学的思考力の伸長、主体的な学習態度の習得を図る。 ○習得した知識と、普段の生活の関連の例を考えさせたり、実物や動画等で説明したりする活動を取り入れ、科学の有用性の理解と学習意欲の喚起を図る。
生徒質問紙調査の結果から	○生活に関わることでは、「いじめ」「人の役に立つ」「睡眠時間」「家族との会話」「地域の大人との関わり」の項目で全国平均を上回っていた。 ○学習に関わることでは、数学の「学習への意欲」「有用性の理解」で、理科の「実験観察の実施状況」で全国平均を上回っていた。	○生活に関わることでは、「宿題の実施状況」「家庭での学習状況」「地域行事への参加」で全国平均を大きく下回っていた。 ○学習に関わることでは、理科の「内容の理解「有用性の理解」「見通しを立てた学習」「振り返り」「発表の際の資料や文章、話し方の工夫」で全国平均を大きく下回っていた。	○宿題の出し方の工夫と生活及び学習習慣の見直しを図る。（授業内容と家庭学習の連携、自主学習ノートの活用、メディア利用に関する家庭への啓発） ○協同学習の推進を図る。（コミュニケーション能力の育成） ○探究活動及び課題解決能力の育成を図る。（協同班学習で取り組ませるジャンプアップ課題の提示）